線型代数学演習A

No.2 要約

2013年4月22日実施

数ベクトル空間. 1

 \mathbb{K} を (可換)体とする. 当面は \mathbb{K} を有理数体 \mathbb{Q} , 実数体 \mathbb{R} あるいは複素数体 \mathbb{C} と考えて 構わない. n を正整数とするとき、 \mathbb{K}^n で \mathbb{K} の元を成分にもつ n 次元列ベクトル (縦ベクト ル)全体のなす集合を表す.

$$\mathbb{K}^n = \left\{ \boldsymbol{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix} ; x_j \in \mathbb{K}, \ 1 \le \forall j \le n \right\}.$$

 $x \in \mathbb{K}^n$ に対して各 x_i (1 < j < n) を x の第 j 成分と呼び、これらを総称して成分と呼ぶ。 (以下では、体は常に(乗法に関して)可換であるとする.)

 \mathbb{K}^n における加法およびスカラー倍を各成分ごとの加法とスカラー倍により定義する.

$$\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ \vdots \\ y_n \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x_1 + y_1 \\ x_2 + y_2 \\ \vdots \\ x_n + y_n \end{pmatrix}, \quad \alpha \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \alpha x_1 \\ \alpha x_2 \\ \vdots \\ \alpha x_n \end{pmatrix}, \quad \alpha \in \mathbb{K}.$$

このように加法およびスカラー倍が定義された \mathbb{K}^n を (n 次元) 数ベクトル空間と呼ぶ. 特 に, $\mathbb{K}=\mathbb{Q}$, \mathbb{R} , \mathbb{C} のときは, \mathbb{Q}^n , \mathbb{R}^n , \mathbb{C}^n をそれぞれ (n 次元) 有理数ベクトル空間, 実数ベ クトル空間、複素数ベクトル空間と呼ぶ.

数ベクトル空間は以下の性質(1)~(8)をもつ.

- (1) x + y = y + x.

$$(3)$$
 $\mathbf{0} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ \vdots \\ 0 \end{pmatrix} \in \mathbb{K}^n$ とおくとき, $oldsymbol{x} + oldsymbol{0} = oldsymbol{0} + oldsymbol{x} = oldsymbol{x}$

- (5) $\alpha(\boldsymbol{x} + \boldsymbol{y}) = \alpha \boldsymbol{x} + \alpha \boldsymbol{y}$.
- (6) $(\alpha + \beta)\mathbf{x} = \alpha\mathbf{x} + \beta\mathbf{x}$.
- (7) $\alpha(\beta \mathbf{x}) = \beta(\alpha \mathbf{x}) = (\alpha \beta) \mathbf{x}$.
- (8) 1x = x.
- (3) の 0 を零ベクトル, (4) の -x を x の逆ベクトルと呼ぶ.

r を正整数とし、 $x_1,x_2,\ldots,x_r\in\mathbb{K}^n$ 、 $\alpha_1,\alpha_2,\ldots,\alpha_r\in\mathbb{K}$ とするとき、 $x=\alpha_1x_1+\alpha_2x_2+\cdots+\alpha_rx_r$ と表される $x\in\mathbb{K}^n$ を x_1,x_2,\ldots,x_r の一次結合と呼び、各 α_j を係数と呼ぶ、 \mathbb{K}^n の元 x_1,x_2,\ldots,x_r が一次独立であるとは、次のことが成り立つことである。

$$\alpha_1 \mathbf{x}_1 + \alpha_2 \mathbf{x}_2 + \dots + \alpha_r \mathbf{x}_r = \mathbf{0} \iff \alpha_1 = \alpha_2 = \dots = \alpha_r = 0.$$

これは、0 が x_1, x_2, \ldots, x_r の一次結合で表わされるのは自明なとき、即ち、すべての係数が 0 となるときであることを意味する、 x_1, x_2, \ldots, x_r が一次独立でないとき一次従属であるという。一次独立性に関して次の補題が成り立つ。

補題 1 $x_1,x_2,\ldots,x_r\in\mathbb{K}^n$ とする。もし、 $y_1,y_2,\ldots,y_r,y_{r+1}\in\mathbb{K}^n$ が x_1,x_2,\ldots,x_r の一次結合で表わされるならば、 $y_1,y_2,\ldots,y_r,y_{r+1}$ は一次従属である。

 $m{x}_1,m{x}_2,\dots,m{x}_r\in\mathbb{K}^n$ について、任意の $m{x}\in\mathbb{K}^n$ が $m{x}_1,m{x}_2,\dots,m{x}_r$ の一次結合で表わされるとき、 $m{x}_1,m{x}_2,\dots,m{x}_r$ は $m{\mathbb{K}}^n$ を生成するという、 $m{x}_1,m{x}_2,\dots,m{x}_r\in\mathbb{K}^n$ が一次独立かつ $m{\mathbb{K}}^n$ を生成するとき、 $\{m{x}_1,m{x}_2,\dots,m{x}_r\}\subset\mathbb{K}^n$ の基底という、

 $1 \leq j \leq n$ なるj について、第j 成分が1、他の成分が0 であるn 次元列ベクトル $e_j \in \mathbb{K}^n$ を基本ベクトルという.

$$m{e}_1 = egin{pmatrix} 1 \ 0 \ 0 \ dots \ 0 \end{pmatrix}, \quad m{e}_2 = egin{pmatrix} 0 \ 1 \ 0 \ dots \ 0 \end{pmatrix}, \quad \dots, \quad m{e}_n = egin{pmatrix} 0 \ 0 \ 0 \ dots \ 1 \end{pmatrix}.$$

 $\{e_1,e_2,\ldots e_n\}$ は \mathbb{K}^n の基底であり、次のことが成り立つ.

$$\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix} = x_1 \mathbf{e}_1 + x_2 \mathbf{e}_2 + \dots + x_n \mathbf{e}_n, \quad \forall x_1, x_2, \dots, x_n \in \mathbb{K}.$$

このことと補題1より以下のことが示される.

- (i) $x_1, x_2, \dots, x_r \in \mathbb{K}^n$ が一次独立 $\Longrightarrow r < n$.
- (ii) $\{x_1, x_2, \dots, x_r\} \subset \mathbb{K}^n$ が \mathbb{K}^n の基底 $\Longrightarrow r = n$.

なお、この要約では列ベクトルをxなどど書いたが、 \vec{x} 、あるいは単にxと表わされることもある。文脈などから、何がベクトルで何がスカラーか見極める必要がある。